

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道 (1F、2F、3F合同)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	平成24年1月13日	評価結果市町村受理日	平成24年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271100923&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271100923&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地と3ユニットと言う大所帯を活かし日頃より各階でのご利用者様同士の交流を深めています。またご利用者様行動に目的や達成感を肌で感じていただける様、階段には「昭和想ひ出ツアー」と題してレトロな空間を出すことによりご利用者様の回想に役立たせて頂いております。また社会貢献・地域交流の一環としてエコ活動にも注力を注ぎ市内のエコ祭りにエントリーしたり、社内事例検討会の2年連続全国大会にも出場させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットをもつ堅牢な外観の建物ではあるが、建物内は気の利いた装飾がおこなわれ、家庭的な雰囲気醸成されている。ユニットごとに「和」「笑」「ひとりひとりを大切に」などのコンセプトを設けていて、生活の場として特色のある雰囲気が実現されている。機能訓練の取り組みとして建物の階段を使った「昭和想ひ出ツアー」を開催し、「心から楽しみながら、運動もできる」という趣旨で心身機能の維持向上につなげている。また、「エコ委員会I love smile」の活動も2年を迎え、沼津市主催行事への参加も継続している。最近の職員の取り組みとして「入居者の心が動く瞬間を大切に」という目標を掲げ、事業所主導の誘導から利用者のペースに合わせた生活様式の確立にむけて取り組んでいる。今後も研修や会議を通じて、職員間での模索を続けていくという。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム沼津我入道 (1F、2F、3F合同)	毎朝の朝礼や会議前に職員全員で理念の唱和を行っている。また、トイレ等、目につく場所に掲示し常に意識できるように努めている。	運営理念とホームの目標、クレド(ケアの信条)を毎朝唱和している。ユニットリーダーを中心として職員で作成した年間目標と月刊目標に向かって一丸となって取り組んでいる。職員は以前より観察力も増し、会議での発言が増えるなどプラスの効果がみられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	お祭りや防災訓練等、地域行事に積極的に参加している。また、エコ活動の一環として地域清掃を行ったり、プルタブ、エコキャップ回収を地域の方々にも協力していただいている。	祭典では山車が事業所によってくれる関係ができていて、利用者にも好評を得ている。また、海岸の定期清掃などの社会活動にも参加している。ボランティア活動の役員を務めていた家族の紹介もあり、種々のボランティア訪問が頻繁におこなわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を常に受け入れるようにしている。また、ホーム見学も随時受け入れており介護について話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加していただいた方々に必ず活動報告を行い、サービス向上のべくご意見をいただいている。また、いただいたご意見はすぐに実践に活かすよう努めている。	運営推進会議は普段使っている共用空間で開催し、利用者を交えて開催している。参加者には自治会長、民生委員、家族、地域包括職員などが含まれ、スライドで写真を交えて運営の様子を分かりやすく説明している。	運営推進会議開催にあたり自治会、老人会などを対象として研修会を開催したり、消防署や近隣の施設などから幅広い職種の参加が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	おもにホーム長が担当し毎週木曜を活動の日とし、地域や事業所に積極的に行くようにしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しているが、市職員の参加は少ない。そのため議事録などを手渡して届けるようにしている。グループホーム連絡協議会では研修委員を担っていて、研修開催にあたり市と協力することも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できるかぎり施錠しないようにしている。全体研修で議題として取り上げ定期的に代表者が勉強会を行っている。	日中はできるだけ施錠せず、職員による見守りをおこなっている。身体拘束について全体研修を通して理解を進めている。「ちょっと待って」という言葉にも拘束の意味が含まれることがあるとして声掛け方法など、利用者を拘束しないケアについて指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後も定期的に議題に取り上げ勉強会を行っていく予定である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、全体会議の議題にとりあげ学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解が得られるよう時間を作り説明している。また、書面でも確認や承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様アンケートを定期的実施したり、玄関に意見箱を設置している。ご意見はすぐに実践に活かせるよう努めている。	運営推進会議への家族の参加率も高く、ユニットによっては全家族が参加することもある。法人で年1回家族アンケートを実施していて、各ユニットで改善に反映させている。館内の清掃や、食事のメニューのボード化など家族からの意見を取り入れて運営に活用された例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い意見を聞くように努めたり、職員会議等で意見と聞いている。また、定期的に職員アンケートを行っている。	年2回個人面談を実施している。面談はヒヤリング的な要素も含まれ、運営に対する意見を聞いたり、職員の目標を再確認する場としても役立っている。また「スタッフ満足度アンケート」を匿名で実施し「利用者も職員も大切」として職員からの要望を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員の評価を実施している。また、個人面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議を利用し、外部より講師をお招きし研修を行っている。その他、外部で行われる研修も積極的に参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加しているが、職員同士が交流できる機会はあまりない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずアセスメントを行いケア会議を実施している。また御家族様に確認も意見をいただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず、御本人、御家族様より話を聞きアセスメントしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要だと判断した際は提案している。またその際には他の機関と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットごと職員を固定で対応し顔馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケア会議や運営推進会議に参加していただいたり、外出の際に協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時受け入れ友人の方々のご面会に良くおとずれている。	毎月「はまかせ通信」を発行し、個別に手紙を添えて家族に送付している。外泊や、墓参などの希望があれば、できるだけ家族の支援を活用して外出できるようにしている。保証人以外にも知人、近所の友人なども面会に訪れ、久しぶりの面会に利用者から笑顔がみられることも多いという	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングや食堂で自由に過ごしている。くつろげるようソファも設置している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な際は介護相談を随時受け入れている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年賀状や暑中見舞いのやり取りを続け繋がりを大切にしよう心がけている。	昨年度からの取り組みとして「どんなときに喜んでいるのか」など、利用者のプラス面に目を向けた気づきを記録するようになっている。日頃の介護記録や家族からの発言のほかにも、利用者からの「つぶやき」を尊重することで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的にケア会議を行い、会議の前には必ず担当者が御本人より話を聞くようになっている。また専用のアセスメントシートを使っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録を記入したり、日報を活用しスタッフ間で申し送りを充実させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の希望を会議前に担当者がアセスメントし、御家族からも必ずご意見を聞くようにしながら担当者会議を行っている。また会議に御家族様も参加していただいている。	「ケアプランチェック表」を利用者ごとに毎日職員が記入することで、プランの達成状況が一目でわかるようになっている。また、家族からの意向を聞くためにあえて「家族の意向」欄を空白にしておいて、家族からの同意を得る際に手書きで要望を得るなどの工夫もおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者が定期的に気づきシートを記入している。日々に気づきより工夫改善する事はユニットリーダーとその都度相談し改善するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズにこたえるよう現在、外出や受診など努力して行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用するよう心掛けている。また、より、多く活用できるよう把握していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して頂くか、ホームのかかりつけ医に診て頂くか十分話し合い援助している。	入居前に協力医に変更するかどうかの確認をしている。協力医以外への受診については原則として家族に依頼している。日頃の健康状態を医師に伝える際には介護記録を一部抜粋して渡すこともあり、医師からの指示については受診記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理には十分注意しており変化や気づいたことはホームの看護師に相談し指示をおおぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り状態把握に努めるように、入院先にも行っている。また、ホーム側より積極的に関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に必ず説明し話し合うようにしている。また、書面でも方針の確認をとるようにしている。	事業所として重度化への対応は困難で、看取りまではおこなえないとの方針をもつ。このことを入居前に家族に対して説明し、同意を得ている。緊急時への備えとして、協力医や看護師との24時間の連絡体制を備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的実施している。地域の方の協力体制は、今後より充実させてく必要がある。	今年度初めて、火災だけでなく津波に対する訓練もおこなった。6分で移動することができたといえ、実際には予想出来ない事もあると課題を再確認している。昨年までは職員だけで地域の防災訓練に参加していたが、今年度からの取り組みとして徐々にではあるが利用者も参加するようになってきている。	津波災害について不安を解消するため、訓練および結果の情報開示を継続することを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識するよう、職員間でも注意し合うようにしているが、まだ徹底できているところまではいっていない。	一昨年前に接遇の研修をおこない、徐々に職員の対応が向上してきている。例えば、「お風呂に入りましょう」ではなく「お風呂で汗を流しましょう」など「心に働きかける」言葉かけをおこなっている。今後は個性に合わせた言葉かけができることをめざしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で、できるかぎり御本人の希望を聞くようにしているが、より一層御本人の思いにそえるようにしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいのかその方のペースにそえるように心がけているが、職員の人員が足りないと希望に添えない場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の好みを把握したり、化粧を御自分でされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を書いていたいたり、味噌汁の具材切り、米をとぐなどを職員とやっていたりしている。また好みに合わせ、おにぎりやパンを用意している。	調理は1階の厨房で作っているが、朝夕の炊飯や味噌汁は各ユニットで調理している。ご飯の炊ける香りや音も体感してもらえるように、炊飯器は共用空間に置かれている。玄関および各ユニットに1日の献立が掲示されていて外部の者にも分かりやすくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表を使い管理している。食事形態なども御本人に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや見守り、介助を御本人の状態に合わせて行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録やチェック表を参考に排泄介助している。随時会議で排泄の自立に向け介助方法の話し合いをしている。	排泄の記録に加えて、利用者の状態を観察することで適切なタイミングでの誘導に活かしている。入居前にリハビリパンツであったが、自立に向けた排泄介助により自立になった例もある。食生活の改善により、自然排便を促すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせ毎日、牛乳を飲みやすいよう工夫し提供したり、運動の援助も積極的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴ができるよう心がけ、一人一人ゆっくり入浴を楽しんでいただけるよう介助している。	マンツーマンでの入浴介助をおこなっている。湯は利用者ごとに張り変え、足ふきマットも毎回清潔なものに交換している。身体機能の低下により浴槽への入浴が困難になっている利用者について、入浴の提供方法についてが今後の検討課題である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングで眠れるように援助している。また睡眠環境も個々に合わせ提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月、会議の際、職員全員で確認するようにしている。変化があった方も報告書を作り確実に申し送りをするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外掃除など家事を職員を行ったり、音楽を生活にとりいれたり、外出レクを定期的に計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食、散歩、買い物などに行っている。御家族様や地域の方々との協力しながらの外出の支援はできていない。	天気の良い日は敷地内や建物周辺のコースを散歩している。冬期は風も強く屋外での活動は不向きなため、建物の階段を使い「昭和想ひ出ツアー」と題して歩行訓練をおこなっている。外食にも出掛けていて、利用者からは回転寿司が特に好まれるという。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持し買い物される方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。手紙は玄関にポストを設置し気軽に手紙が出せるよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごと飾りを変え楽しんでいただけている様子である。落ち着いた雰囲気心をかけている。	生活感を失わないように、幼稚にならないようにというルールのもと自由にレイアウトしている。1階は日めくりカレンダーなどが掲示されている。屋外には菜園があり、季節ごとの野菜や花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下、玄関にソファやベンチを置き自由にくつろげるようにしている。また、リビングに図書コーナーを作り自由に楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れたものや好みのものを持って来ていただくように協力していただいている。畳をひいている方もいる。	1階の居室では、鏡台の周りに創作レクリエーションで作成した小物を飾っていたり、畳みを敷いて布団で生活している部屋が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレの表示など分かりやすいよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム沼津我入道 (1F、2F、3F合同)	職員の目のつく場所に掲示、また毎日の朝礼で唱和し、意識、実践に繋がれるように努めている。	運営理念とホームの目標、クレド(ケアの信条)を毎朝唱和している。ユニットリーダーを中心として職員で作成した年間目標と月刊目標に向かって一丸となって取り組んでいる。職員は以前より観察力も増し、会議での発言が増えるなどプラスの効果がみられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りや、防災訓練、地域清掃に参加している。	祭典では山車が事業所によってくれる関係ができていて、利用者にも好評を得ている。また、海岸の定期清掃などの社会活動にも参加している。ボランティア活動の役員を務めていた家族の紹介もあり、種々のボランティア訪問が頻繁におこなわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な一つ一つの意見を大切に活かし、いくつかに話し合いサービスの向上に向け努力している。	運営推進会議は普段使っている共用空間で開催し、利用者を交えて開催している。参加者には自治会長、民生委員、家族、地域包括職員などが含まれ、スライドで写真を交えて運営の様子を分かりやすく説明している。	運営推進会議開催にあたり自治会、老人会などを対象として研修会を開催したり、消防署や近隣の施設などから幅広い職種の参加が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの担当者が取り組んでいる。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しているが、市職員の参加は少ない。そのため議事録などを手渡して届けるようにしている。グループホーム連絡協議会では研修委員を担っていて、研修開催にあたり市と協力することも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無いケアを継続し行っています。	日中はできるだけ施錠せず、職員による見守りをおこなっている。身体拘束について全体研修を通して理解を進めている。「ちょっと待って」という言葉にも拘束の意味が含まれることがあるとして声掛け方法など、利用者を拘束しないケアについて指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に全体会議や、フロア会議で話し合い考えながらそのような事の無いように注意、防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ十分に出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム担当者が行っています。入居後でも不安や疑問の申し出がある時にはその都度安心して頂けるまでお話を聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に置いてある意見箱やアンケートの配布などで機会を設けその意見を反映出来る様努力している。	運営推進会議への家族の参加率も高く、ユニットによっては全家族が参加することもある。法人で年1回家族アンケートを実施していて、各ユニットで改善に反映させている。館内の清掃や、食事のメニューのボード化など家族からの意見を取り入れて運営に活用された例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議の場を設け意見や提案を聞ける環境を作っている。	年2回個人面談を実施している。面談はヒヤリング的な要素も含まれ、運営に対する意見を聞いたり、職員の目標を再確認する場としても役立っている。また「スタッフ満足度アンケート」を匿名で実施し「利用者も職員も大切」として職員からの要望を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回自己評価を行ってもらいそれをもとに一人一人と話す時間を持ってもらい各自向上を持って働いて頂ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人に応じた研修を提供し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会で同業者との交流できる機会に参加し、様々な活動を通じサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には特に積極的に関わりを持つ事を心がけ本人との信頼関係を築き安心して生活して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族の言葉にできるだけ耳を傾け家族の思いを尊重し信頼して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の言葉の中から、今本当に必要としている事を見極め、家族に相談しながらその事に対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側という一方的な関係ではなく生活を通じてお互いに支え合うような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人がその人らしく安心して穏やかに過ごす事が出来る様家族と協力し合える関係で入れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や友人との面会時間を楽しんで頂いたり、時には家族と馴染みの場所に外出して頂いたりしながら支援に努めている。	毎月「はまかせ通信」を発行し、個別に手紙を添えて家族に送付している。外泊や、墓参などの希望があれば、できるだけ家族の支援を活用して外出できるようにしている。保証人以外にも知人、近所の友人なども面会に訪れ、久しぶりの面会に利用者から笑顔がみられることも多いという	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士がコミュニケーションを取れるような支援をしたり、行事などを通じて関わり合いを多く持てるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談を受けたりしながら対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重し、出来る限り本人の意向に添ったサービスが出来る様心掛けている。	昨年度からの取り組みとして「どんなときに喜んでいのか」など、利用者のプラス面に目を向けた気づきを記録するようになっている。日頃の介護記録や家族からの発言のほかにも、利用者からの「つぶやき」を尊重することで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会議等で仲間と情報を共有しながら、職員全員が把握していける様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝礼や申し送りを通して、変化などあった場合はその都度対応していける様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、ユニットにて担当者会議を行い、それにもとづきケアプランを作成し、家族に説明しながら、その都度家族の意見も聞き作成に反映させている。	「ケアプランチェック表」を利用者ごとに毎日職員が記入することで、プランの達成状況が一目でわかるようになっている。また、家族からの意向を聞くためにあえて「家族の意向」欄を空白にしておいて、家族からの同意を得る際に手書きで要望を得るなどの工夫もおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や日中と夜間、1日2回のケア日報を毎日記入し、それを仲間と確認しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と話し合い、状況を把握しながら、色々なかたちでサービスが提供出来る様努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動になるべく参加できるように意識を持ち予定を組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連帯を常にとり、Drとの信頼関係のもと、入居者の健康管理に努めている。	入居前に協力医に変更するかどうかの確認をしている。協力医以外への受診については原則として家族に依頼している。日頃の健康状態を医師に伝える際には介護記録を一部抜粋して渡すこともあり、医師からの指示については受診記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの体調変化、気づき、相談は、看護師と、情報交換に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関と十分連携が取れるよう、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に協力していただき、本人に一番良い方法をとっている。	事業所として重度化への対応は困難で、看取りまではおこなえないとの方針をもつ。このことを入居前に家族に対して説明し、同意を得ている。緊急時への備えとして、協力医や看護師との24時間の連絡体制を備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な会議や研修などを通して、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実践している。地域の協力体制は今後の課題である。	今年度初めて、火災だけでなく津波に対する訓練もおこなった。6分で移動することができたとはいえ、実際には予想出来ない事もあるとして課題を再確認している。昨年までは職員だけで地域の防災訓練に参加していたが、今年度からの取り組みとして徐々にではあるが利用者も参加するようになっている。	津波災害について不安を解消するため、訓練および結果の情報開示を継続することを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々スタッフ間でコミュニケーションをとり気付き、行動を反省して入居者様の人格を尊重した対応が出来る様に心がけている。	一昨年前に接遇の研修をおこない、徐々に職員への対応が向上してきている。例えば、「お風呂に入りましょう」ではなく「お風呂で汗を流しましょう」など「心に働きかける」言葉かけをおこなっている。今後は個性に合わせた言葉かけができることをめざしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重し思いや希望に耳を傾けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペース思いに添った支援が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に介助の必要な方の能力を損なわない支援に気を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のペースを大事にしている。片付けの出来る方に関しては一緒に行っている。	調理は1階の厨房で作っているが、朝夕の炊飯や味噌汁は各ユニットで調理している。ご飯の炊ける香りや音も体感してもらえるように、炊飯器は共用空間に置かれている。玄関および各ユニットに1日の献立が掲示されていて外部の者にも分かりやすくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェック表を付けて一人ひとりの健康状態、把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内の状況に応じて、歯ブラシ、マウスウォッシュ、入れ歯洗浄剤等を使い口腔内の清潔に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとにトイレ誘導を行い排泄のパターン、習慣を活かし自立に向けた支援を行っている。	排泄の記録に加えて、利用者の状態を観察することで適切なタイミングでの誘導に活かしている。入居前にリハビリパンツであったが、自立に向けた排泄介助により自立になった例もある。食生活の改善により、自然排便を促すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた十分な水分や、運動への働きかけを無理なく楽しみながら行って頂く事が出来る様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと楽しみながら入浴して頂けるよう日々努めている。	マンツーマンでの入浴介助をおこなっている。湯は利用者ごとに張り変え、足ふきマットも毎回清潔なものに交換している。身体機能の低下により浴槽への入浴が困難になっている利用者について、入浴の提供方法についてが今後の検討課題である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時や日々の様子をもとに一人一人に合った支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分とは言えないが服薬に関しては十分に注意し薬の把握に関してはすぐに目的、用法などがわかるように薬の説明書を個人のファイルにはさみ確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人や家族に聞き楽しみや、喜び、張り合いを持った支援が出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分ではないが外に散歩に出掛ける機会等を出来る限り増やしていける様に努めている。	天気の良い日は敷地内や建物周辺のコースを散歩している。冬期は風も強く屋外での活動は不向きなため、建物の階段を使い「昭和想ひ出ツアー」と題して歩行訓練をおこなっている。外食にも出掛けていて、利用者からは回転寿司が特に好まれるという。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳で管理しており、個々に所持できる対応は、行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	寂しいとき、不安、不穏が解消出来る様、電話は、本人より希望があった際、使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者から不満の声もなく、気持ちよく生活していただいている。	生活感を失わないように、幼稚にならないようにというルールのもと自由にレイアウトしている。2階は「笑」をコンセプトとして外出やイベントの際に利用者が笑顔あふれている写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごしていただく時、本人の様子を見ながら、ソファに座っていただく食卓の席の配置など、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談、協力により、普段使用していたものを持って来ていただき、居心地良く過ごしていただくよう努めている。	2階の居室では、ベットや鏡台など自宅で使っていた家具を持ち込むことにより落ち着いて過ごすことが出来る部屋づくりが視認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子に目立つ布を貼り、転倒防止に努めている。		3階の居室では、カーペットを敷いて家具を備えることにより自宅と見間違うような居室もみられ、利用者ごとの個性あふれる空間づくりがみられた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム沼津我入道 (1F、2F、3F合同)	リーダー会議、各ユニット会議、朝礼を通じて、スタッフ皆で唱和し、理念を周知できるようにしている。	運営理念とホームの目標、クレド(ケアの信条)を毎朝唱和している。ユニットリーダーを中心として職員で作成した年間目標と月刊目標に向かって一丸となって取り組んでいる。職員は以前より観察力も増し、会議での発言が増えるなどプラスの効果がみられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で開催される防災訓練や清掃活動に参加している。	祭典では山車が事業所によってくれる関係ができていて、利用者にも好評を得ている。また、海岸の定期清掃などの社会活動にも参加している。ボランティア活動の役員を務めていた家族の紹介もあり、種々のボランティア訪問が頻繁におこなわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、地域の方を招待して、会議の中で認知症の人の理解や支援の方法と一緒に学習している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の方や御家族様、御入居者様を交え、日頃のホームでの活動報告や意見が頂ける場としてサービスの向上に努めている。	運営推進会議は普段使っている共用空間で開催し、利用者を交えて開催している。参加者には自治会長、民生委員、家族、地域包括職員などが含まれ、スライドで写真を交えて運営の様子を分かりやすく説明している。	運営推進会議開催にあたり自治会、老人会などを対象として研修会を開催したり、消防署や近隣の施設などから幅広い職種の参加が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と連携できるような機会を設け、連携を密にしていこうにしたい。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しているが、市職員の参加は少ない。そのため議事録などを手渡して届けるようにしている。グループホーム連絡協議会では研修委員を担っていて、研修開催にあたり市と協力することも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向け、日頃のケアの見直しをユニット会議の際に行い、拘束はしないように努めている。	日中はできるだけ施錠せず、職員による見守りをおこなっている。身体拘束について全体研修を通して理解を進めている。「ちょっと待って」という言葉にも拘束の意味が含まれることがあるとして声掛け方法など、利用者を拘束しないケアについて指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止に努めている。法律関係については、研修への参加も含めて積極的に行っていきたいと思う。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や関する制度についての理解はまだ低いと思われるので、勉強会等も含め、学ぶ機会を作りたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、御家族様との会話をする時間を十分に時間を作り、不安や疑問を聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様アンケートを実施し、御家族様から意見を聞く機会を設けている。	運営推進会議への家族の参加率も高く、ユニットによっては全家族が参加することもある。法人で年1回家族アンケートを実施していて、各ユニットで改善に反映させている。館内の清掃や、食事のメニューのボード化など家族からの意見を取り入れて運営に活用された例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	御家族様アンケートを実施し、意見や提案を聞き、今後の対策に向け、会社全体取り組んでいる。	年2回個人面談を実施している。面談はヒヤリング的な要素も含まれ、運営に対する意見を聞いたり、職員の目標を再確認する場としても役立っている。また「スタッフ満足度アンケート」を匿名で実施し「利用者も職員も大切」として職員からの要望を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が1年に2回自己評価を行い、日頃の自分についての評価を行っている。その評価をもとにして、管理者と面談し、課題を共有し、向上心が持てるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議の際、全体研修や意見の交換会などを行い、知識取得に励むと共に外部研修にも日程を調整しながら参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと連絡を取り合い、情報交換をするとともに、グループホーム連絡会議に参加した際にも積極的に意見交換に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに、自宅や施設等、入居者様が生活されている場に足を運び、顔を覚えていただけるよう伺っている。伺った際には、御本人様のお話をよく聞き、信頼関係が少しでも構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人様と同様に、御家族様と話す機会を設け、困っていることや不安なこと等耳を傾けながら関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様や御家族様の要望をしっかりと受け止め、「その時」に必要なサービス専門職の立場から見極めに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることをしっかりと見極め出来ることに関しては行っていただき、達成感を味わっていただけるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様ばかりではなく、御家族様との絆を大切に、共に支えられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と相談しながら、これまでに行っていた馴染みの人に会いに行ったり、馴染みの場所に行ける様に支援している。	毎月「はまかせ通信」を発行し、個別に手紙を添えて家族に送付している。外泊や、墓参などの希望があれば、できるだけ家族の支援を活用して外出できるようにしている。保証人以外にも知人、近所の友人なども面会に訪れ、久しぶりの面会に利用者から笑顔がみられることも多いという	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ一人ひとりが入居者様の情報をしっかりと把握することに努めている。入居者様が孤立しないように、関わりを持ち、支えあえるように支援をしている。支障がある場合、担当者会議を通じ問題の早期解決を目指している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時に築いた関係性を大切にして、サービス利用が終了してからも御本人様や御家族様の相談等がある際には、支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とコミュニケーションがゆっくりと取れる時間を設け、希望や意向を聞いている。困難な場合にも、本人本位な視点を外れないように検討をしている。	昨年度からの取り組みとして「どんなときに喜んでいるのか」など、利用者のプラス面に目を向けた気づきを記録するようになっている。日頃の介護記録や家族からの発言のほかにも、利用者からの「つぶやき」を尊重することで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを大切にという観点から入居時に御家族様の協力を仰ぎ、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の把握をケア日報やケース記録、申し送りノートを活用して全員で情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングの際に、より良い暮らしが出来るよう意見を出し合い、その人らしい介護計画が作成されるよう努力している。課題としては、御家族様の担当者会議への参加が出来ていない。	「ケアプランチェック表」を利用者ごとに毎日職員が記入することで、プランの達成状況が一目でわかるようになっている。また、家族からの意向を聞くためにあえて「家族の意向」欄を空白にしておいて、家族からの同意を得る際に手書きで要望を得るなどの工夫もおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報やケース記録、申し送りノート等を活用しながら、スタッフ間で情報を共有化している。共有化した情報を実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応出来るよう、固定概念に捉われないで、柔軟な支援が出来る様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スタッフ各自が地域資源にはどのようなものがあるかの把握に努め、地域の中でその人らしい生活を送ることできるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診していただいている主治医と連携を密に取りながら、御入居者様の希望に沿った医療が受けられるように支援している。	入居前に協力医に変更するかどうかの確認をしている。協力医以外への受診については原則として家族に依頼している。日頃の健康状態を医師に伝える際には介護記録を一部抜粋して渡すこともあり、医師からの指示については受診記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にいつでも連絡が取れるよう体制を整えていて、早急に対応できるようにしている。受診した際には、受診報告書を作成して情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にスムーズに事が進むように、日頃から病院関係者との連絡を密にして、関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けては、御家族様と話をする機会を設けて、いざその時に動くのではなく、前もって準備をするよう、御家族様との共通認識となるよう話し合いをしている。	事業所として重度化への対応は困難で、看取りまではおこなえないとの方針をもつ。このことを入居前に家族に対して説明し、同意を得ている。緊急時への備えとして、協力医や看護師との24時間の連絡体制を備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフも入れ替わりがあり、救急対応の講習を受けていない人もいますので、今年中には講習会を開き、皆で勉強したいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	前年、津波で大きな被害があったのを教訓にして、津波時を想定した対応も検討するようしていく必要がある。	今年度初めて、火災だけでなく津波に対する訓練もおこなった。6分で移動することができたとはいえ、実際には予想出来ない事もあるとして課題を再確認している。昨年までは職員だけで地域の防災訓練に参加していたが、今年度からの取り組みとして徐々にではあるが利用者も参加するようになってきている。	津波災害について不安を解消するため、訓練および結果の情報開示を継続することを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳を守れるような声かけや対応を行えるようにしていきたい。	一昨年前に接遇の研修をおこない、徐々に職員の対応が向上してきている。例えば、「お風呂に入りましょう」ではなく「お風呂で汗を流しましょう」など「心に働きかける」言葉かけをおこなっている。今後は個性に合わせた言葉かけができることをめざしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者様の担当となっているスタッフを中心として、本人の思いや希望が表出できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合った、また各個人の希望に沿った生活ができるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時を初めとし、日中を通して身だしなみの整った気持ちの良い生活ができるよう援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、家庭的な雰囲気や安全を大切にしながら、安全においしく食べて頂けるようにしている。	調理は1階の厨房で作っているが、朝夕の炊飯や味噌汁は各ユニットで調理している。ご飯の炊ける香りや音も体感してもらえるように、炊飯器は共用空間に置かれている。玄関および各ユニットに1日の献立が掲示されていて外部の者にも分かりやすくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が1日を通して確保出来るよう、チェック表を用いて確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアの呼びかけを行い、口腔内の清潔保持、誤嚥の防止をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いたり、スタッフ間で情報共有しながら排泄の自立に向けての支援を行っている。	排泄の記録に加えて、利用者の状態を観察することで適切なタイミングでの誘導に活かしている。入居前にリハビリパンツであったが、自立に向けた排泄介助により自立になった例もある。食生活の改善により、自然排便を促すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段より適度な運動や十分な水分摂取を心がけ、下剤に頼らない支援を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各入居者様、バランスの取れた入浴回数になっているよう心がけているが、入浴希望する方には1人でも多く入浴して頂けるよう努めている。	マンツーマンでの入浴介助をおこなっている。湯は利用者ごとに張り替え、足ふきマットも毎回清潔なものに交換している。身体機能の低下により浴槽への入浴が困難になっている利用者について、入浴の提供方法についてが今後の検討課題である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の様子などと照らし合わせながら、無理のない、規則正しい生活が送れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診の後は必ず受診報告書や申し送りにて薬の変更や受診の詳細について情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来ること、共同生活の中で楽しみながら手伝って頂けることを見つけ、無理強いせずに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	レクリエーションや歩行訓練の一環として、天気の良い日は外へ散歩へのお誘いしている。今後も外出する機会を増やすようにしていきたい。	天気が良い日は敷地内や建物周辺のコースを散歩している。冬期は風も強く屋外での活動は不向きなため、建物の階段を使い「昭和想ひ出ツアー」と題して歩行訓練をおこなっている。外食にも出掛けていて、利用者からは回転寿司が特に好まれるという。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべての入居者様が事務所でお金を把握し、買いたい物がある時は、そこから出して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様より電話や手紙のやり取りの希望があった場合、すぐに支援をするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット会議で、スタッフ皆で話し合い、御入居者様が少しでも居心地のよくなるような共用空間が作れるようにしている。	生活感を失わないように、幼稚にならないようにというルールのもと自由にレイアウトしている。3階は「和」をコンセプトとして外出やイベントの際に利用者が笑顔あふれている写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い御入居者様を隣同士にしたり、思い通りに過ごしていただくなどして、居場所を作るようにしている。共同空間での独りの空間というのは取れていないので、工夫が必要である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様に協力していただき、今まで使い慣れた好みのものを持って来ていただくなどして、居室は居心地が良く過ごしていただけるように工夫している。	3階の居室では、カーペットを敷いて家具を備えることにより自宅と見間違えような居室もみられ、利用者ごとの個性あふれる空間づくりがみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を大切に考え、できることはなるべく御自分で行っていただくようにして、安全で自立した生活が送られるようにしている。		